

会津地域移住者アンケート結果について

令和4年10月
福島県会津地方振興局

1 アンケート調査概要

- ◇アンケートの目的
会津地域に移住してきた方々の声を把握し、今後の定住・二地域居住推進に関する施策形成や具体的な事業構築にいかしていく。
- ◇アンケート実施期間
令和4年7月下旬～8月下旬まで
- ◇アンケート対象者
平成29年1月1日以降に会津13市町村に移住した世帯の代表者
- ◇アンケート回答方法
専用ウェブフォーム又はアンケート用紙
- ◇質問数
27問（各質問項目については、別紙参照。）
- ◇回答依頼数及び回答者数
①回答依頼数246 ②回答者数108 ※回答率43.9%（②/①）

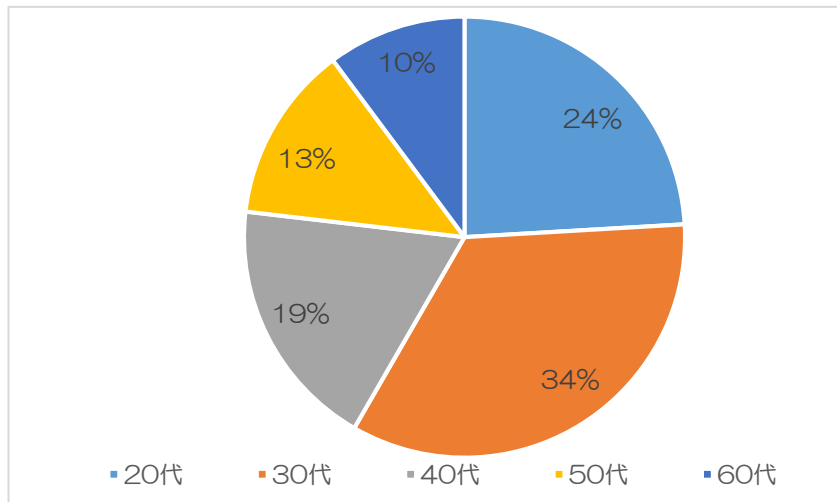
◇会津地域への移住の実態と特徴（まとめ）

移住者属性	①県外からは、首都圏（東京都、神奈川県等）からの転入が54%と多い。県内からは、都市部（福島市、郡山市、会津若松市）からの転入が43%と多い。
移住前のこと	②若い世代（20代、30代）の移住者が58%と半数を超え最も多い。また、移住時の世帯構成は、単身世帯が65%と最も多い。
移住後のこと	③移住のきっかけ・目的としては、「自然豊かなところで暮らしたい」が最も多く、次いで「地域おこし協力隊への入隊」、「ゆとりある生活を求めて」移住する方が多い。
移住後のこと	④移住活動の情報収集は、「行政のインターネットサイト（HP）」が最も多い。また、その他の回答は25件あり、そのうち「家族」や「親戚」など知人関係から情報収集した方が16件と多い。
移住後のこと	⑤生活環境について、〔買い物〕、〔子育て〕については、「とても満足」、「満足」の割合が、「少し不満」、「不満」の割合とほぼ同数である一方、〔医療環境〕、〔公共交通機関〕は「少し不満」、「不満」の割合が、「とても満足」、「満足」の割合の倍以上と多い。
移住後のこと	⑥職探しについては、「役所・役場の職員募集（地域おこし協力隊など）」が32名と最も多く、次いで「知人の紹介」が17名と多い。
今後	⑦これから先、どのくらい会津地域に住み続けたいかについては、「転居予定なし」及び「5年以上」居住予定が71%と半数を超え最も多い。

2 アンケート結果【回答者基本情報】

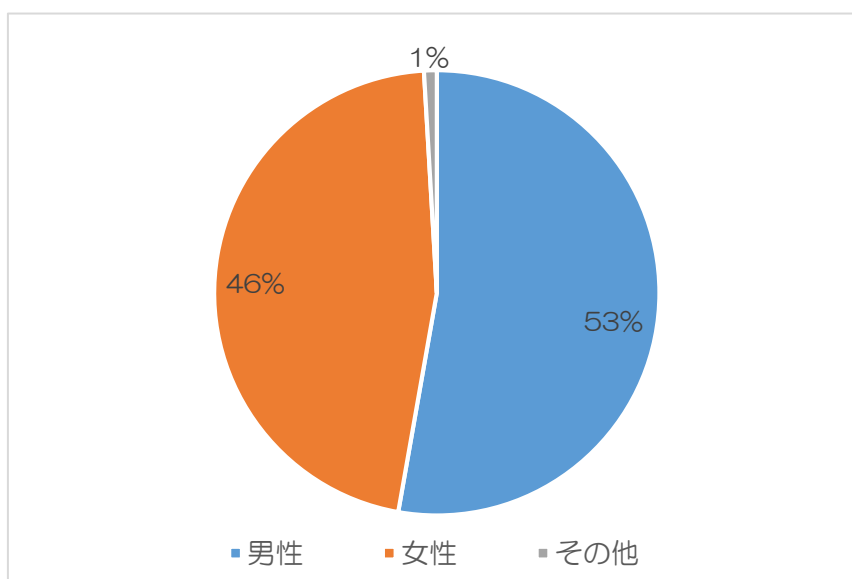
Q1 年代

30代が最も多く37名（34%）、次いで20代が26名（24%）となり、20～30代で半数を超えるなど、若い世代から多くのアンケート協力があった。



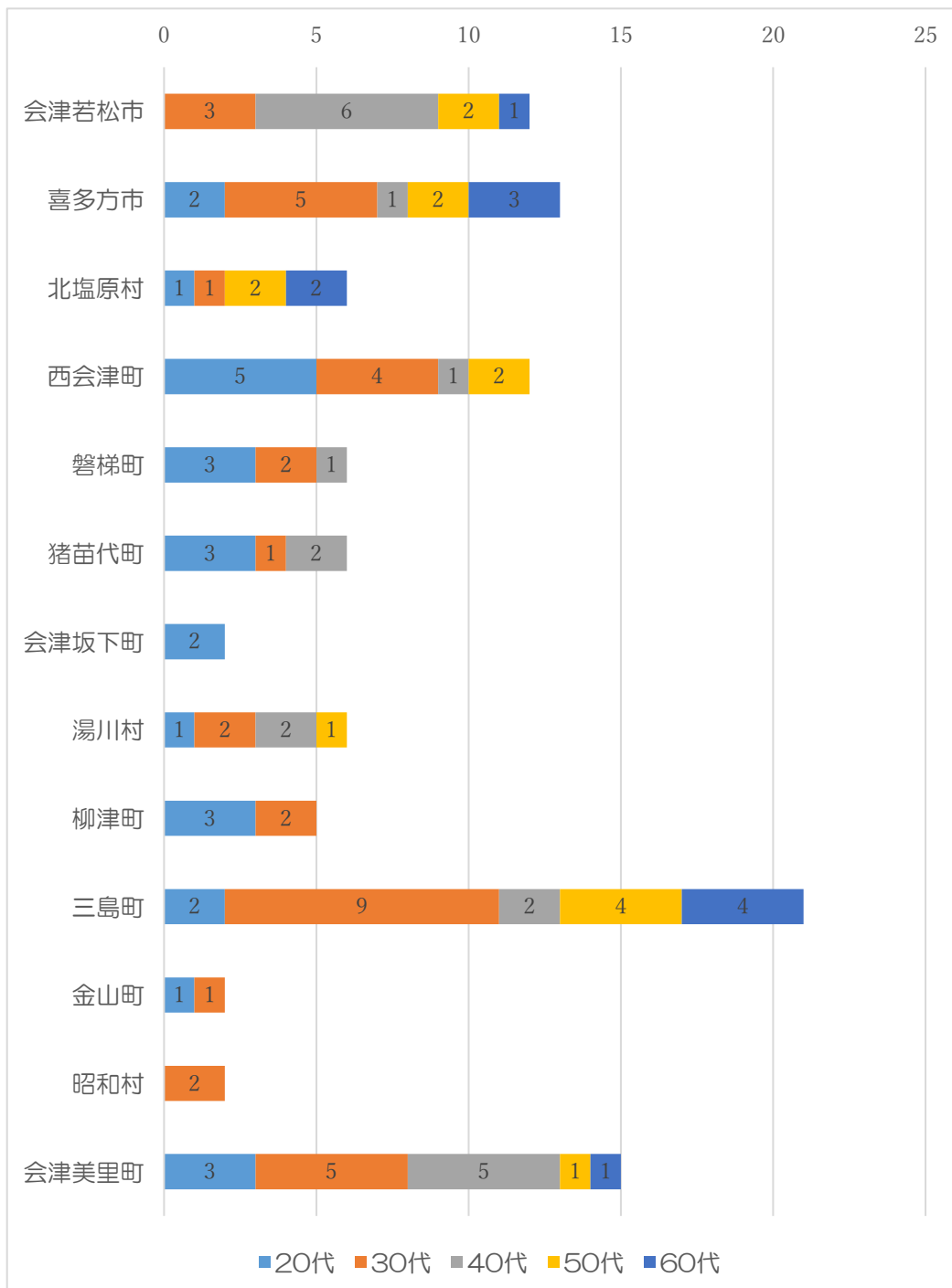
Q2 性別

男性が57名（53%）、女性が50名（46%）で、それぞれ約半数となった。



Q3 移住先市町村

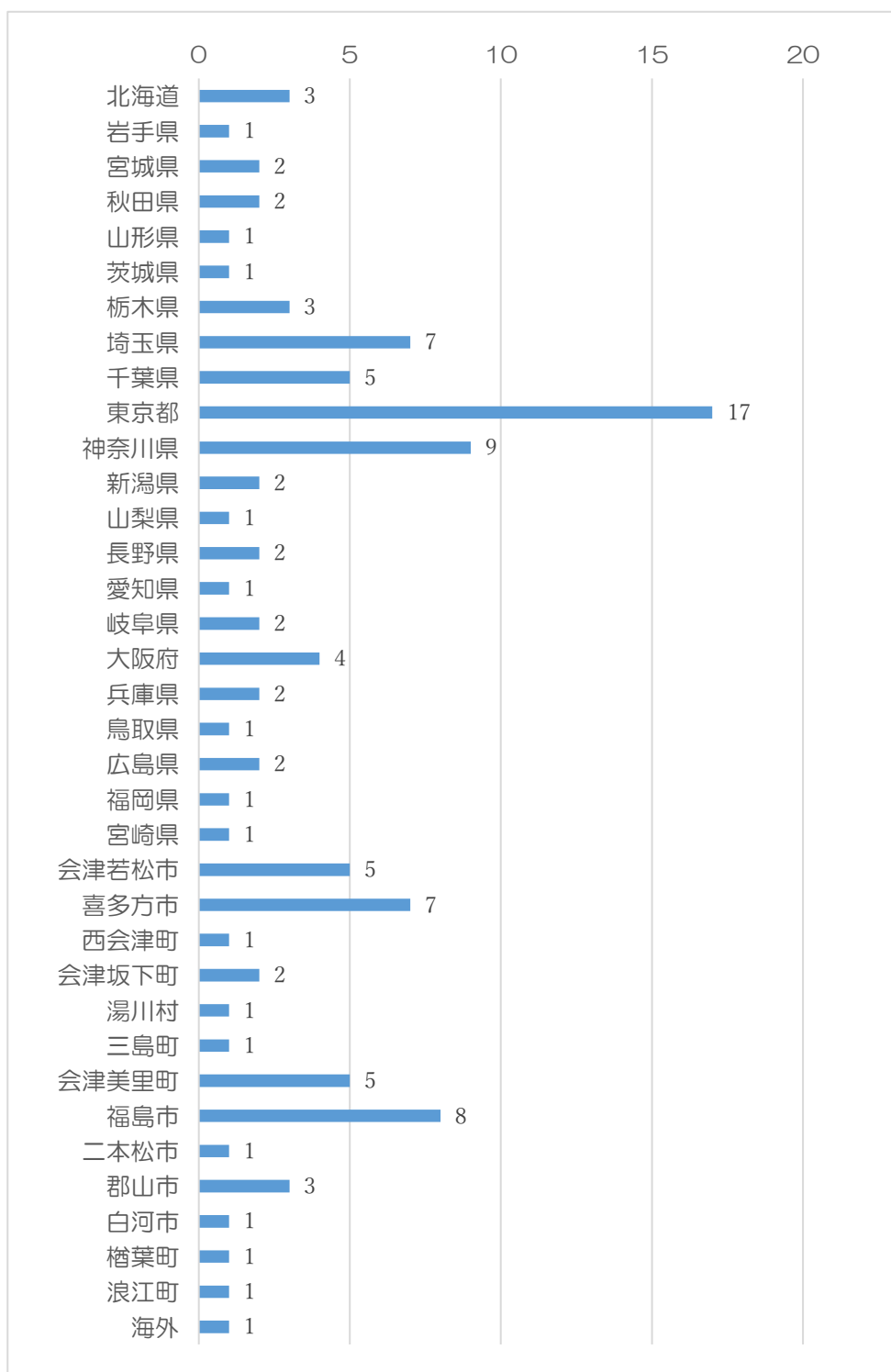
三島町の移住者の回答が最も多く21名、次いで会津美里町の移住者の回答が15名、喜多方市が13名、会津若松市及び西会津町が12名となった。



Q4 出身都道府県

「東京都」(17名)、「神奈川県」(9名)、「埼玉県」(7名)等の首都圏出身の回答者が多かった。

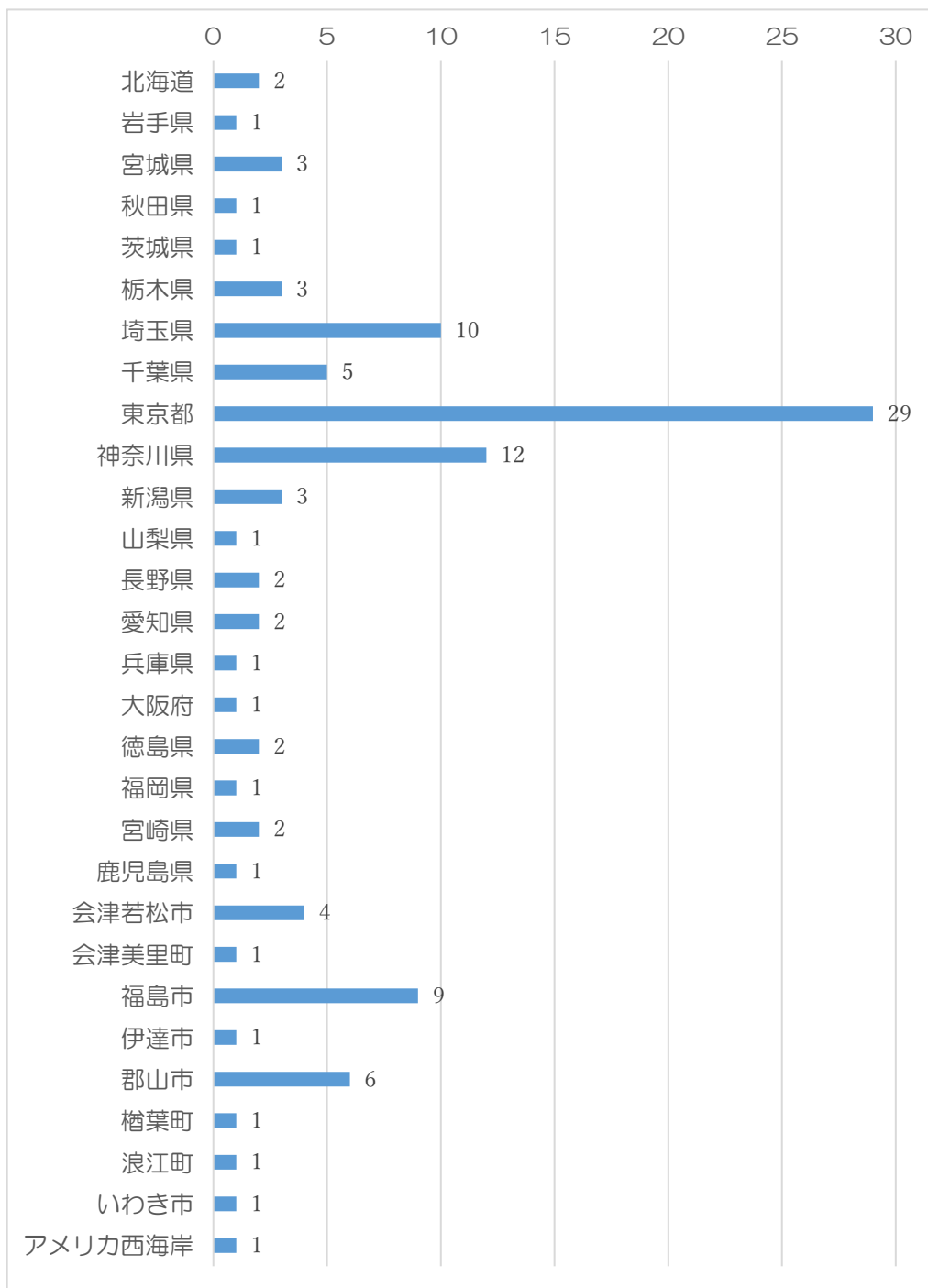
また、県内では、「福島市」(8名)、「喜多方市」(7名)、「会津若松市」(5名)等県内市出身の回答者が多かった。



Q5 移住前に住んでいた都道府県

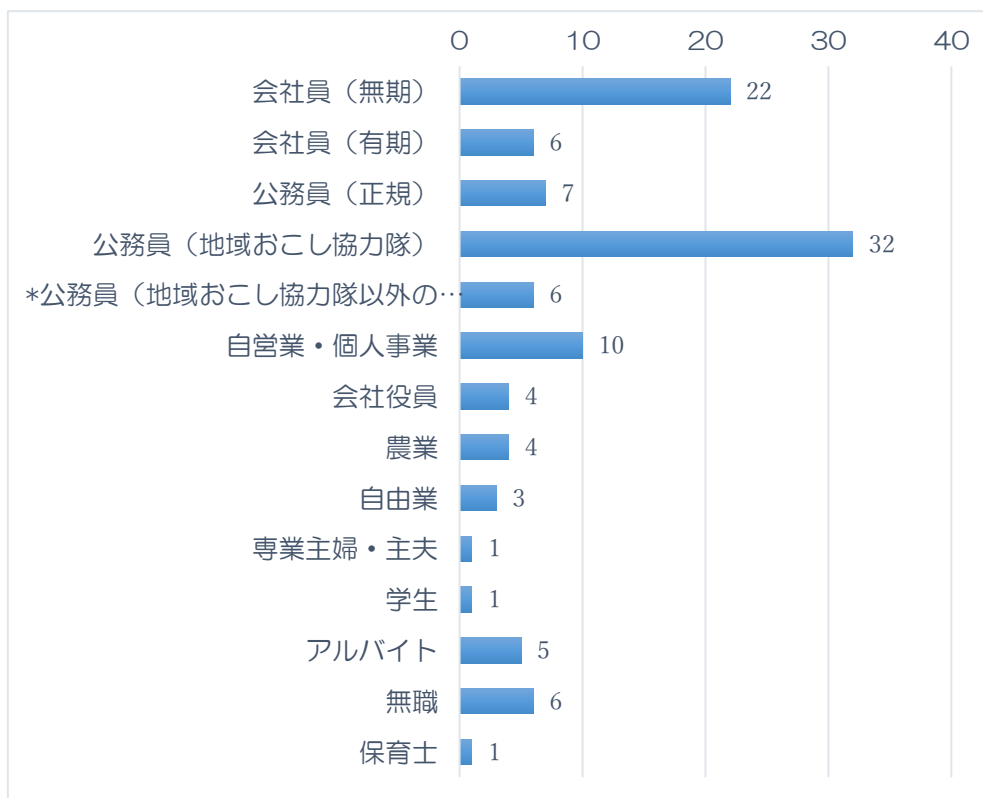
Q4と同様、「東京都」(29名)、「神奈川県」(12名)、「埼玉県」(10名)等の首都圏出身の回答者が多かった。

また、県内においても、「福島市」(9名)、「郡山市」(6名)、「会津若松市」(4名)等県内市出身の回答者が多かった。



Q6 職業

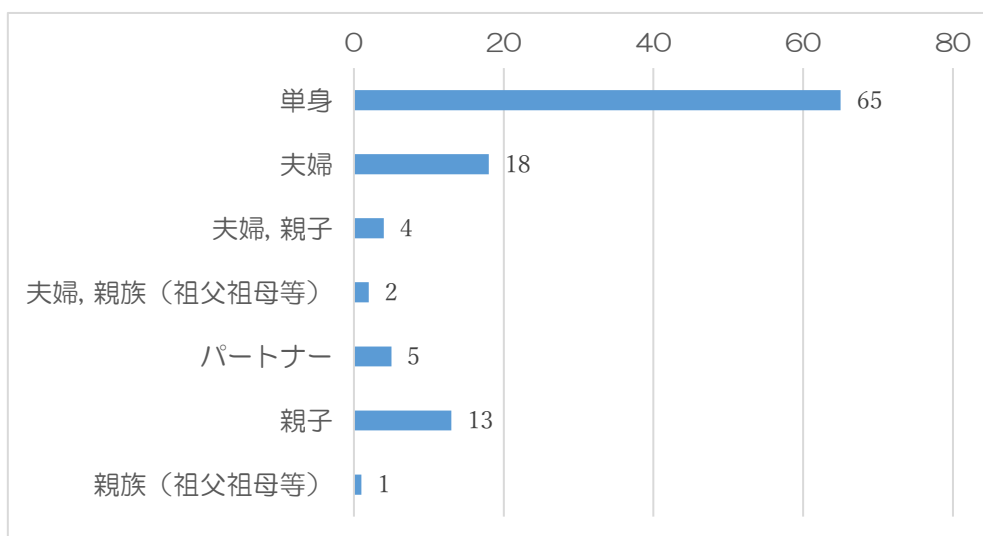
「公務員（地域おこし協力隊）」が最も多く（32名）、次に「会社員（無期）」（22名）、「自営業・個人事業主」（10名）の回答者が多かった。



*公務員（地域おこし協力隊以外の会計年度任用職員）

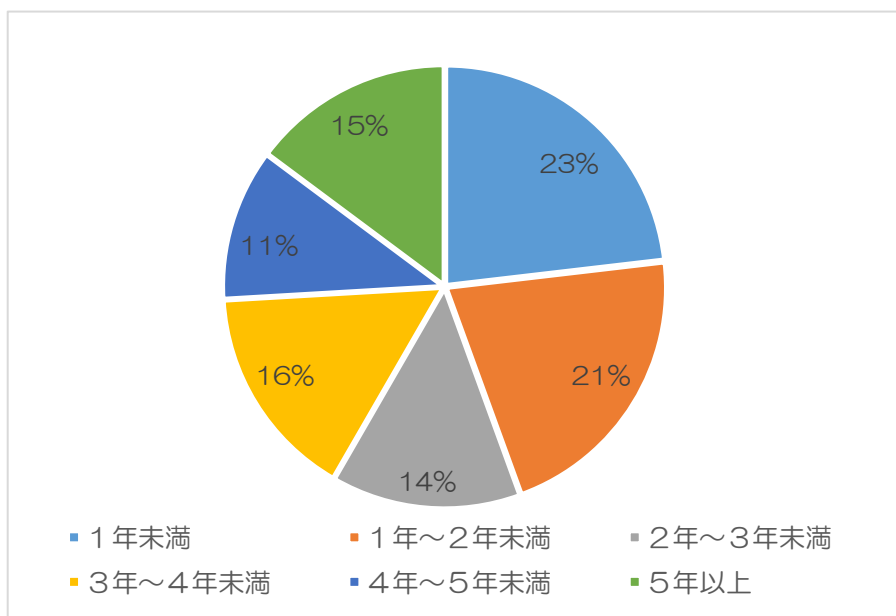
Q7 移住時の世帯構成

「単身」の回答者が最も多く（65名）半数以上となった。



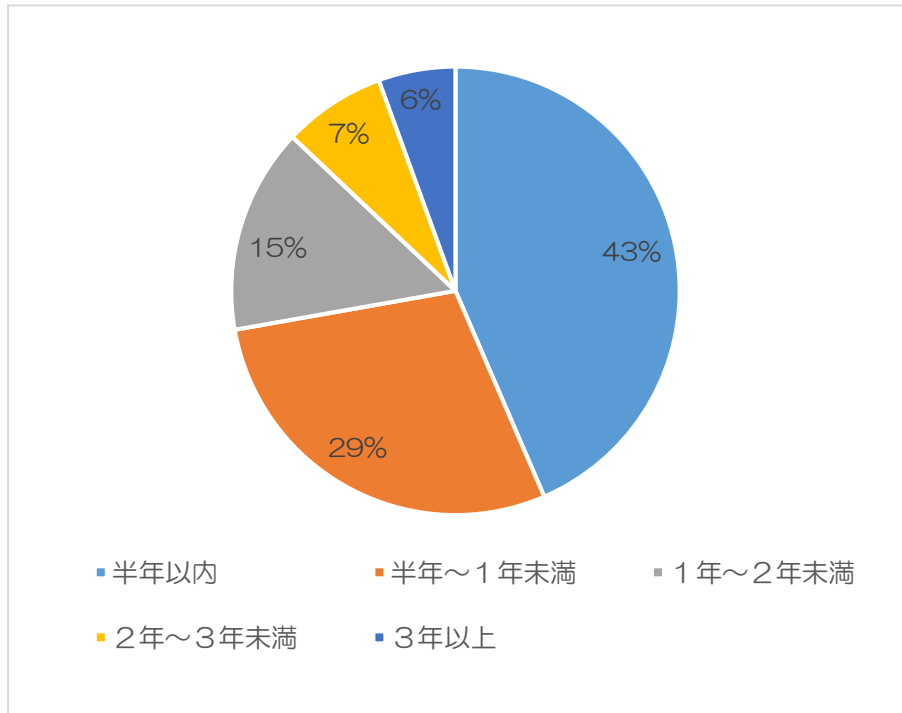
Q8 会津地域への移住年数

「1年未満」が最も多く25名（23%）、次いで「1年～2年未満」23名（21%）など、3年未満が約半数となった。



3 アンケート結果【移住前に関すること】

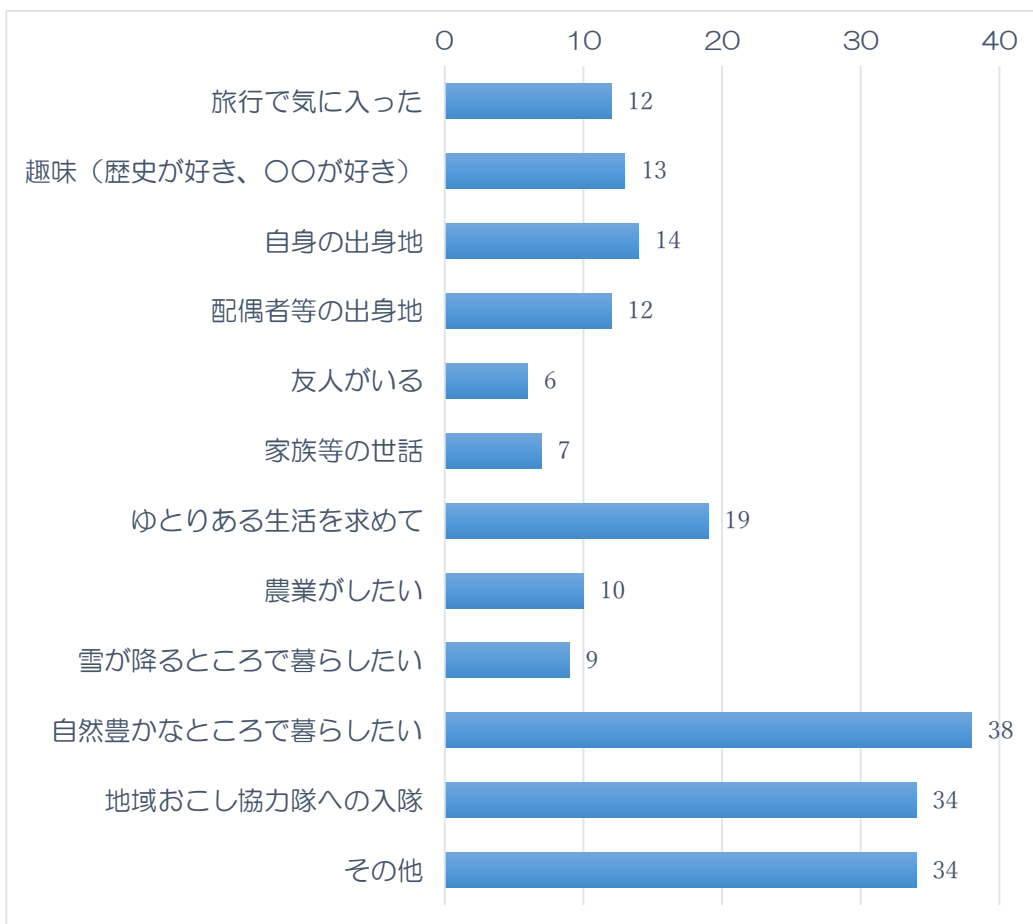
Q9 移住を検討してから、実際に移住するまでの期間
「半年以内」(47名) 43%、「半年～1年未満」(31名) 29%と72%
の方が、1年未満に会津地域への移住を決めている。



Q10 移住のきっかけ、目的 〈複数回答可〉

「自然豊かなところで暮らしたい」(38名)、「ゆとりある生活を求めて」(19名)などの目的が多かった。

その他の回答としては、知人がいるため、仕事のため、子育てのため、やりたいことがあったためなどがあつた。

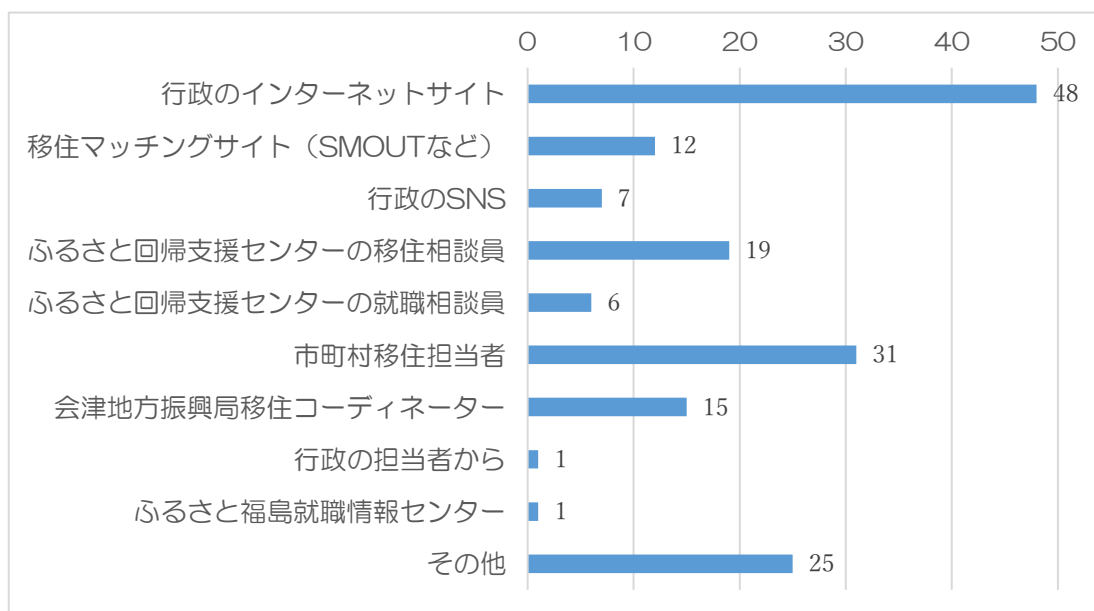


《その他の主な回答》

大学在学中に訪れたことがありそこで知り合った人がいたから
コロナ禍でテレワークになったため
配偶者の仕事のため
子育てのため
やりたい事があったから
古民家で暮らしたい
会津の文化を学びたい
地元の伝統工芸品を作りたいと思ったため

Q11 移住活動の情報収集（相談） 〈複数回答可〉

「行政のインターネットサイト（HP）」（48名）や「市町村担当者」（31名）など、インターネットや行政機関から情報収集をした方が多くいる一方で、家族や親戚、知人などから情報収集をしている方が多かった。



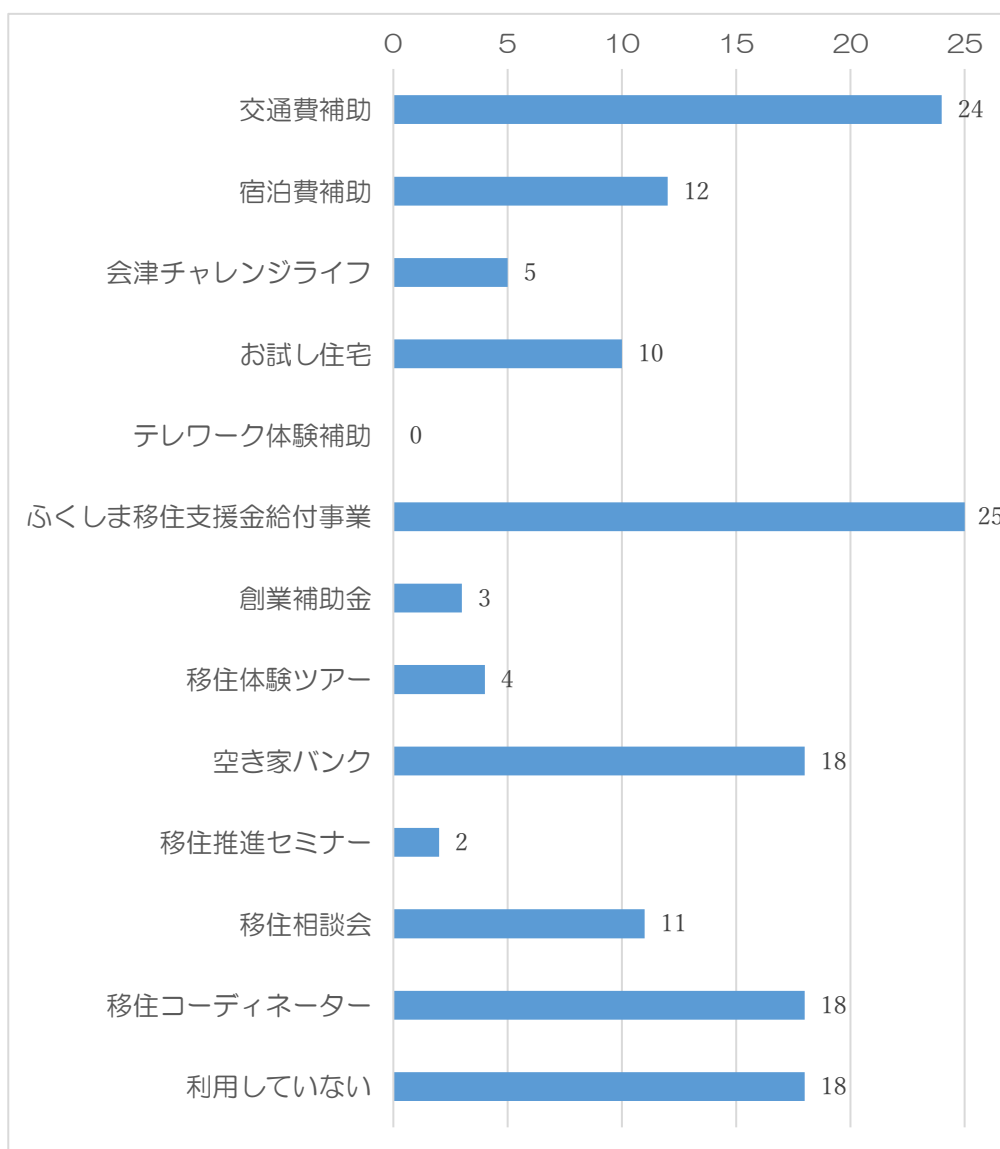
《その他の主な回答》

田舎暮らし体験ツアー
ふくしま連携復興センター
家族・・・（3名）
親戚
実際に住んでいる旦那家族からの情報
夫の実家
会津の知人（知人）・・・（4名）
ご近所さんから
町の移住者や町に暮らす同年代の方々に直接話を聞く
町内で暮らしている知り合いの人
共に仕事をやってきた人間が多数いて、ほぼ準地元。家も、同僚が探してきてくれた。
就職先の上司、先輩方
専門学校先生
大学の授業の関係
雑誌

Q12 移住する際に利用した移住支援で効果的と感じたもの 〈複数回答可〉

「ふくしま移住支援金給付事業」(25名)や「空き家バンク」(18名)など住まいに関する支援、「交通費補助」(24名)や「宿泊費補助」(12名)など現地見学に関する支援、さらには「移住コーディネーター」(18名)や「移住相談会」(11名)など移住の際の相談体制について効果的と感じる方が多かった。

一方で、「移住支援を利用していない」方(18名)も多かった。



4 アンケート結果【移住後に関すること】

Q13 移住してよかったこと

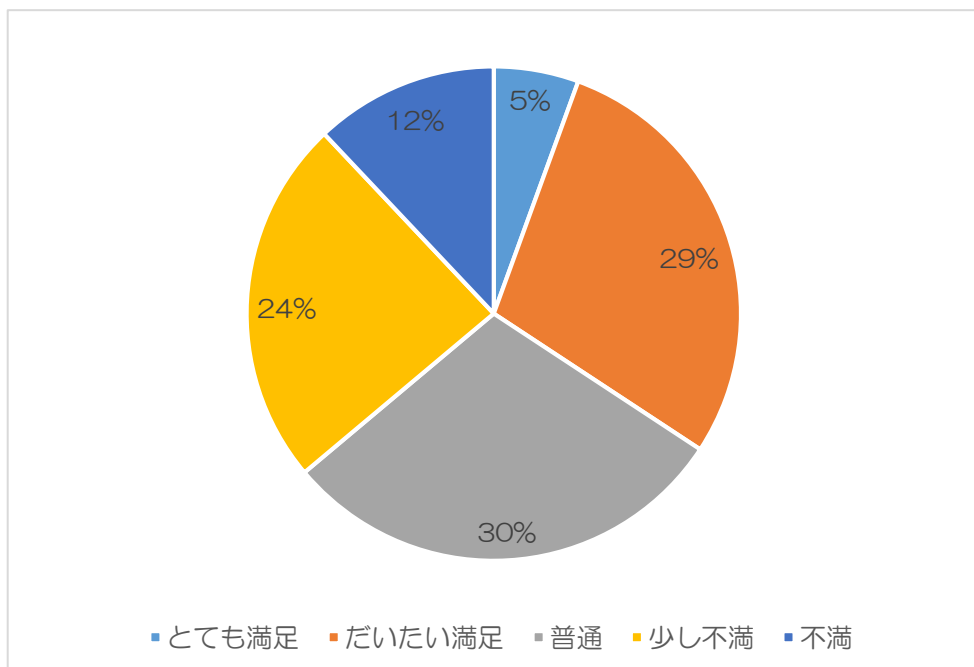
会津地域に移住して良かったこととして、人、自然、食べ物、歴史、文化などの回答が多かった。

都会にはない人付き合いが魅力的。自然が豊かで昔からの伝統文化の行事がすばらしい。心穏やかに豊かに生活できる。夏は暑いが都会に比べては断然過ごしやすい。
環境に慣れるまで時間がかかったが、食べ物が美味しい。のどかな田舎風景に癒やされる。
たくさんの人と出会い良くしていただいたこと。そしてたくさんの方の考え方に触れつつ自分自身と向き合うことが増え、自分がやりたいことが見つかった。
自然が豊かでスローライフを送れるようになった。
都会とは違う人の温かみを感じます。
空が広い。高い建物が少ないから、ストレスを感じない。
心に余裕が出来た。
自然豊かな環境で穏やかに子育てができること。
旬の野菜や特産品がおいしい。
豊かな自然に毎日触れる事が出来る、苦労も有るけれど毎日充実しています。人が優しい。近隣の方々の優しさに何時も助けられています。新鮮で種類の豊富な野菜や果物が手に入る。
町民の皆さんが優しく接して下さること。自然が豊かで心が安らぐこと。お祭りやイベントが多く、町の文化を知り、人と繋がる事ができる。
都会ではできない体験ができた。
町の方が親切で交流が楽しい。暮らしを自分たちの手で作れることが面白い。景色が綺麗。食べ物がおいしい。
近所の方があたたかく接して下さること。
出身地とは異なる文化に触れ、さまざまな経験ができた。
関西にはなかった刺激を常に感じる事ができ、毎日の生活が新しい気持ち。第二の人生を送っている。
生活費が高くないこと、自然が身近で落ち着くこと。
町役場や町の方が親切。自然豊かな。サークルや町のイベントが沢山あるところ。
自然、食、住民、歴史、農業、四季、友人

上記含め、84件の回答をいただきました。

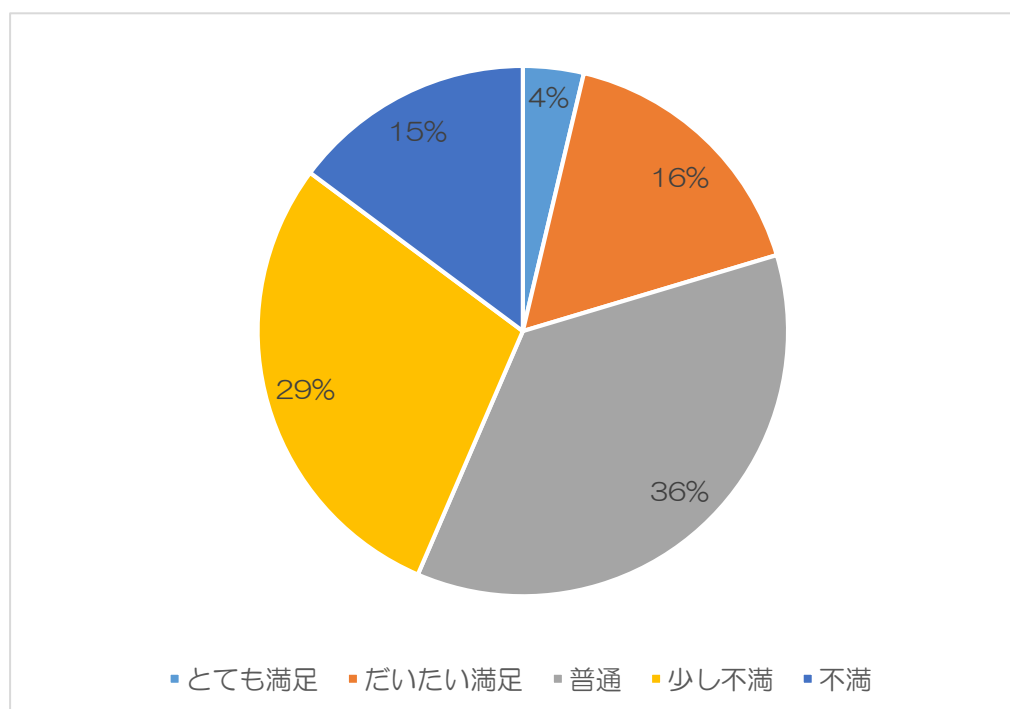
Q14-1 生活環境について [買い物環境]

「とても満足」、「満足」が34%である一方、「少し不満」、「不満」が36%となり、ほぼ同率であった。



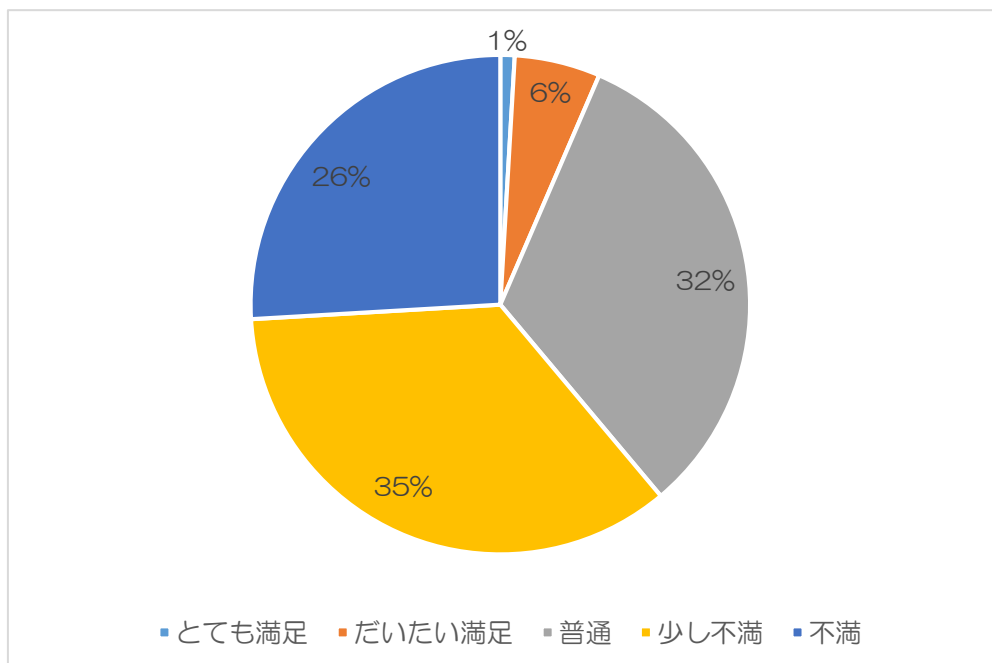
Q14-2 生活環境について [医療環境]

「とても満足」、「満足」が20%である一方、「少し不満」及び「不満」が44%となった。



Q14-3 生活環境について [公共交通機関]

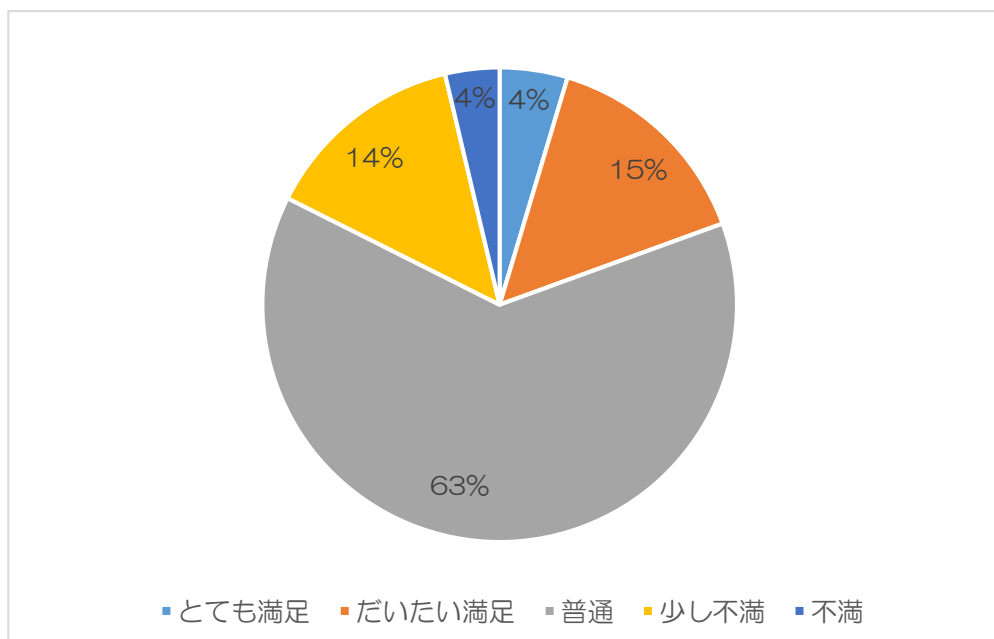
「とても満足」、「満足」が7%である一方、「少し不満」、「不満」が61%となった。



Q14-4 生活環境について [子育て環境]

「とても満足」、「満足」が19%である一方、「少し不満」、「不満」が18%となり、ほぼ同率であった。

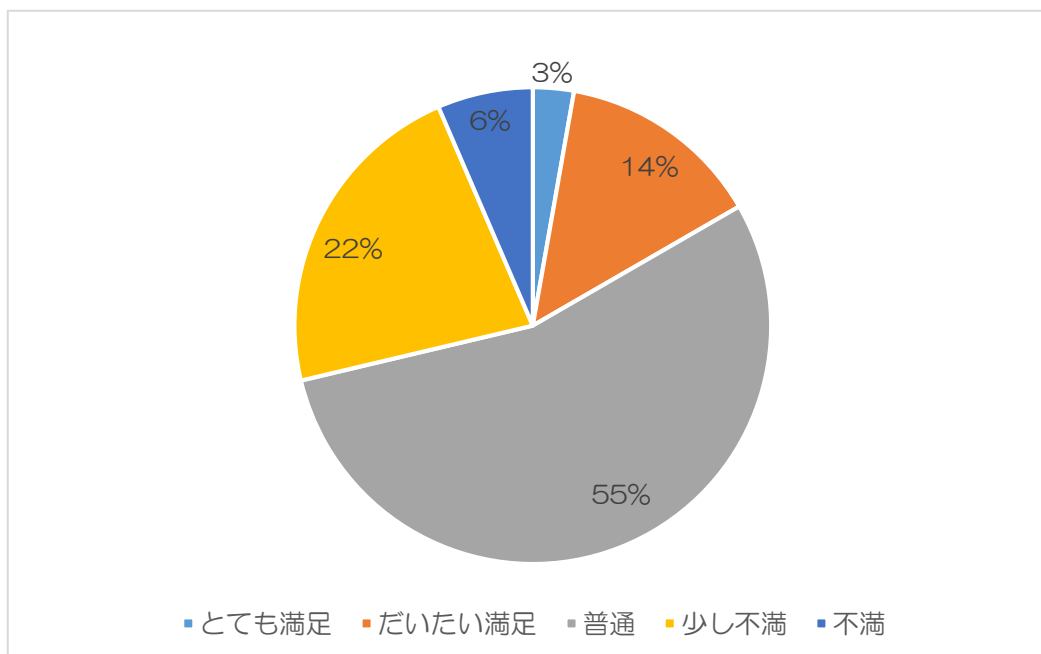
また、「普通」と感じている方が63%と最も多かった。



Q14-5 生活環境について [教育環境]

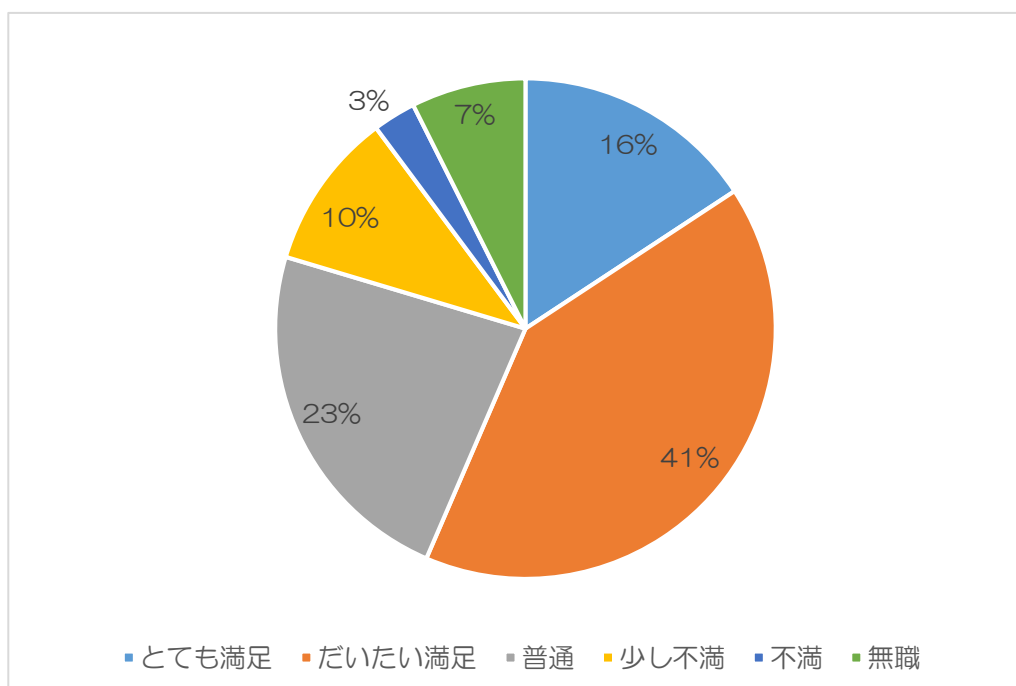
「とても満足」、「満足」が17%である一方、「少し不満」、「不満」が28%となった。

また、「普通」と感じている方が55%と最も多かった。



Q15 職業について

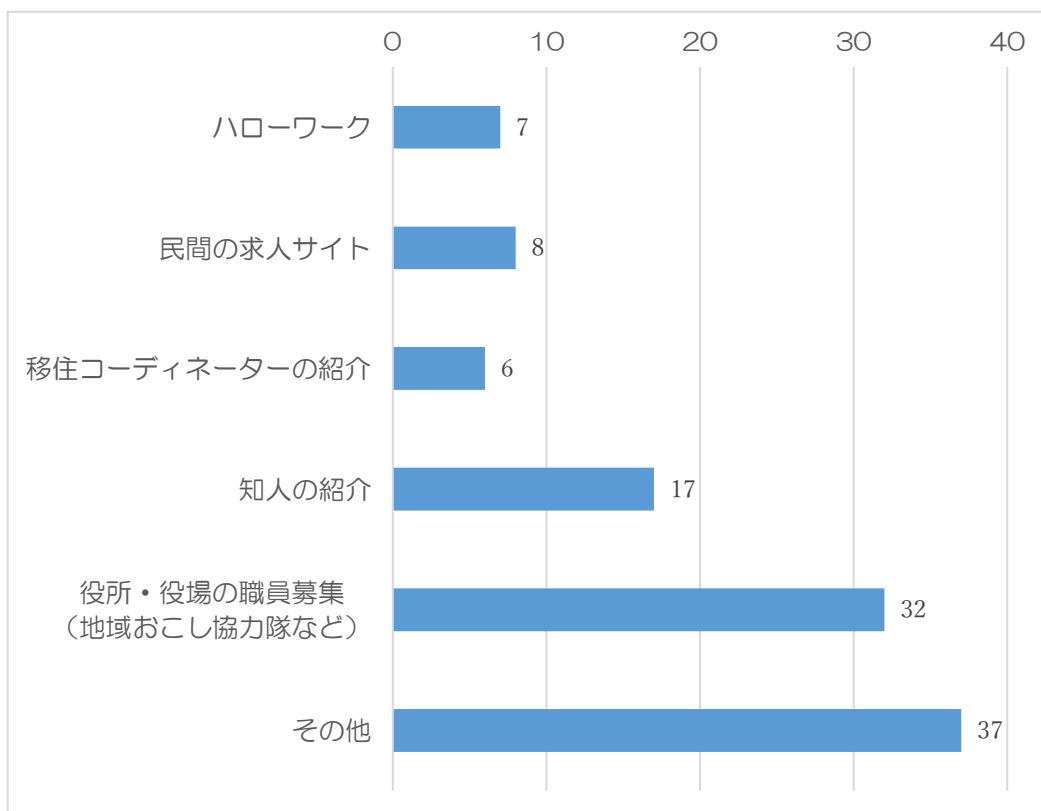
「とても満足」、「満足」が57%である一方、「少し不満」、「不満」が13%となった。



Q16 どのように職を探したか

地域おこし協力隊の方からの回答協力が多かったことから、当設問についても「役所・役場の職員募集（地域おこし協力隊など）」が32名と最も多かった。次に「知人の紹介」が17名と多かった。

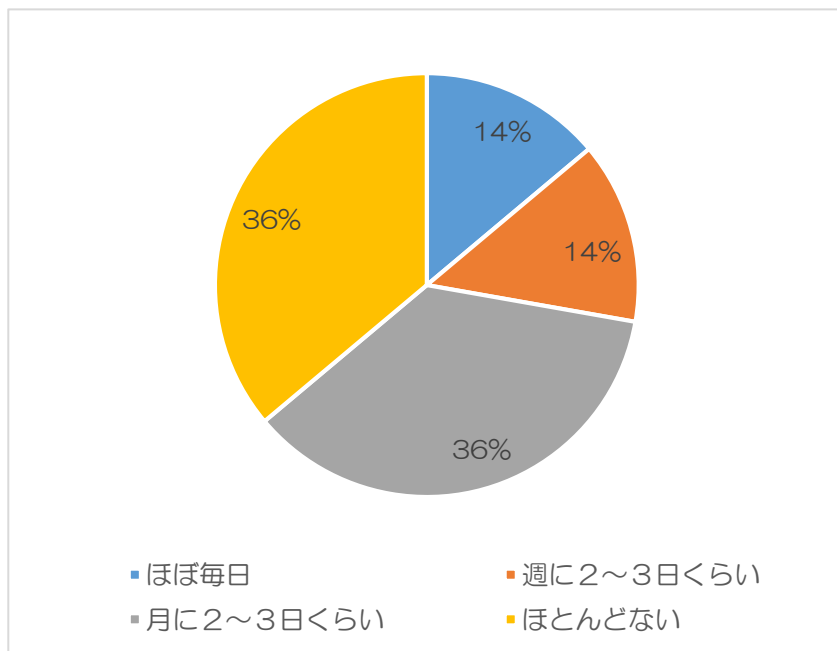
この他、その他の回答として、移住前から職業に変更はないなどの回答が多かった。



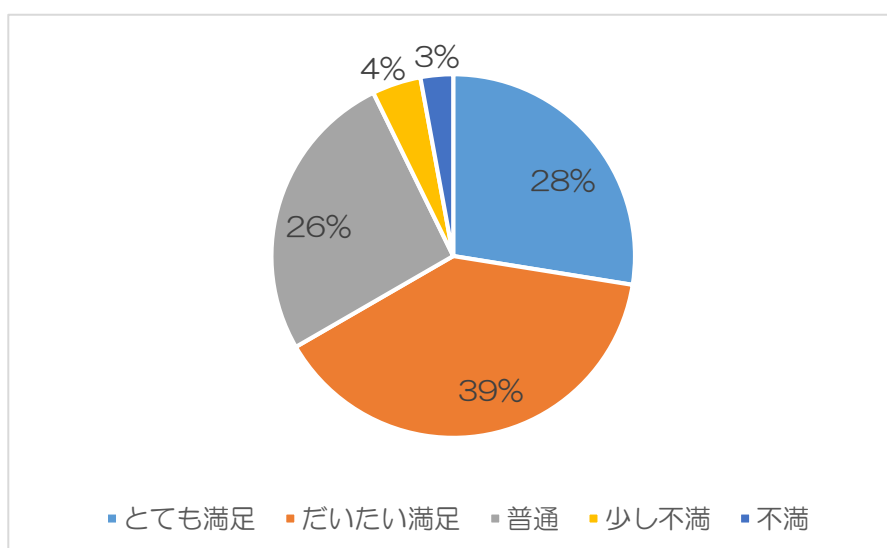
《その他の主な回答》

役場の紹介
ふるさと回帰支援センターの方
移住前の仕事をテレワークで継続
職探しはなし（移住前の仕事を継続中）
起業
インターネット
年金暮らし
探していない

Q17 地域内での人付き合い（近所同士の助け合い、集会等）参加
 「ほぼ毎日」、「週に2～3日くらい」がそれぞれ14%であった一方、「月に2～3日くらい」、「ほとんどない」がそれぞれ36%となった。



Q18 上記の方が、人付き合いをどのように感じているか
 「とても満足」及び「だいたい満足」が67%である一方、「少し不満」、「不満」が7%となった。



Q19 移住して驚いたこと、困ったこと、不安なこと

自然環境、鳥獣被害関係、生活費、買い物・娯楽施設、公共交通機関や医療機関、地域コミュニティ関係などの回答があった。

想像以上に夏が暑い。
雪かきが大変。夏は意外と暑い。車がないとやっぱり不便。
いくら奥会津の中では少ないほうとはいえ、この降雪量に度肝を抜かれました。
冬場の運転の怖さ。
大雪、寒さ、熊や猪、買い物、老後の生活の不安。
虫と雪の多さ、自然災害への不安。
鳥獣関係。
ガス代、水道料、介護保険料が高い。
家賃がまあまあ高い。
映画館がない。
買い物する場所が少ない。子供の遊べる場所が少ない。
公共交通機関へのアクセスの悪さ。
病院は一応あるが医療提供体制が不十分で不安。
噂話を聞くのがいやでした。
近所の目が気になる。
子供がいないとご近所さんなどと接点がほぼありません。
首都圏との違い（空き家の考え方、人との付き合い方、車社会）。
町の方の人間関係が予想以上に濃密だった。
行政の対応。
今後高齢化が進み、人口が減った際に地域がどのように変化していくのかが不安。

上記含め、90件の回答をいただきました。

Q20 移住前に知っておきたかったこと

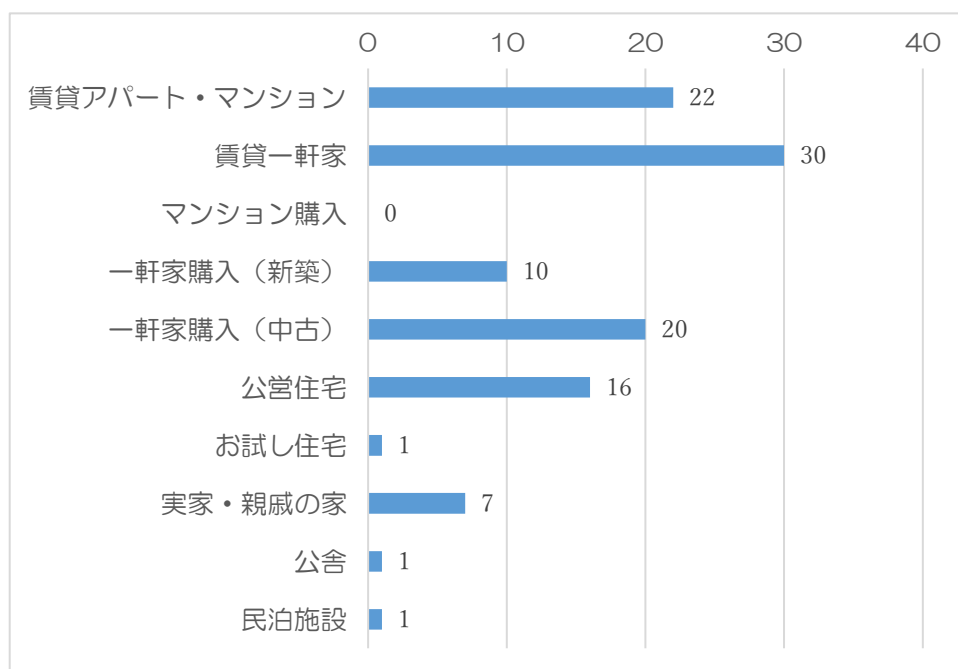
雪、生活コスト、車の必要性、地域に関することなどの回答があった。

まちの暗さ、雪の多さ。
雪国の暮らし方。
冬場の運転の怖さ、物価が意外に高いこと。
除雪のコツ。
獣害の状況。
ガス代、ガソリン代が高いこと。
一般的な生活費等の支出の割合・相場。
外食にかかる費用の相場。
生活コストが意外にかかること、町費など。
食べ物のデリバリーが届かない。
どのような車が新生活において合っているのか。
車がないと生活できない。
生活環境の状況確認が少なかった。
ごみの分別方法。
どんな祭りがあって、どんな役割が回ってくるのか。
集落・地区の雰囲気。
移住者に対する地域の人達の思い。
地域のキーマン（移住後もアテンドはほぼ無い）。
移住する前と移住した後にどんな手続きが必要なのかを分かりやすくまとめたものが欲しかったです。住民税は最初の1年は以前いた場所に払う、郵便局に転送届を出すなど、初歩的なことも書いてある分かりやすい手引きなどがあればありがたいなと思いました。必要最低限の薬や、薬剤師がいないと処方されない薬は買っておいた方がいいことも知っておきたかったです。
補助金関係。

上記含め、63件の回答をいただきました。

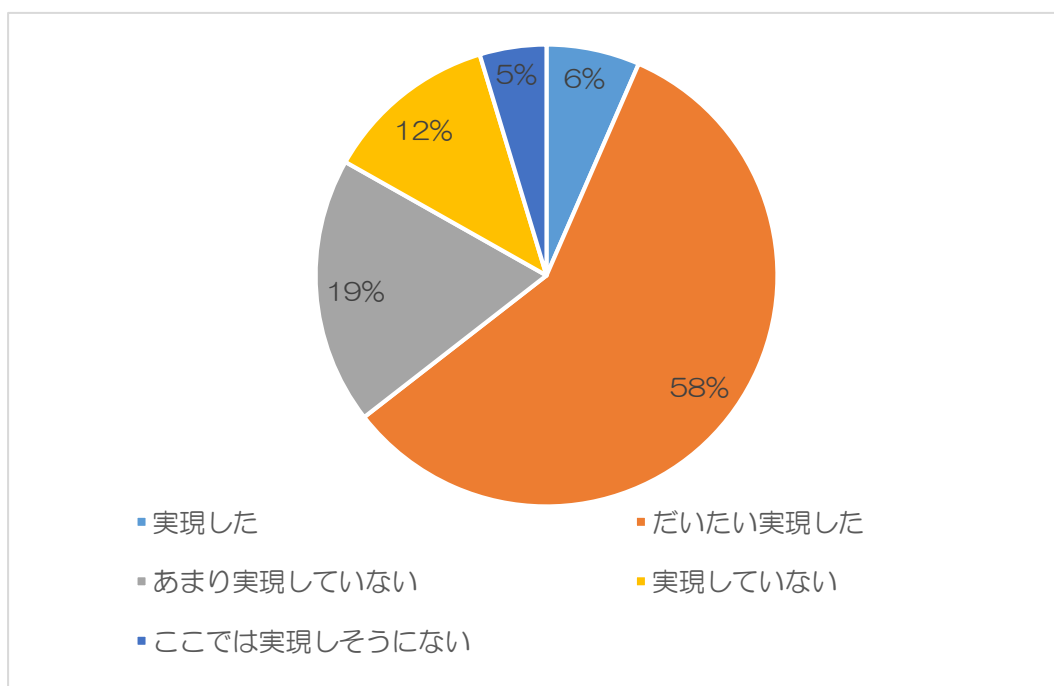
Q21 住まい

「賃貸一軒家」(30名)が最も多く、次に「賃貸アパート・マンション」(22名)が多かった。



Q22 会津地域で、移住前に描いていた理想の暮らしは実現したか

「実現した」及び「だいたい実現した」が64%と半数以上となった。



Q23 Q22 の理由

実現した
<ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かで、人も優しく、とても素敵な場所だと思ったからです。 ・東京では誰が住んでいるのか名前ですら知らない、挨拶しても返ってこない。そんな生活をしていたので、皆さんが私達を見かける度に声をかけてくれいつも気にしてくれていて、娘を自分の子供のように可愛がってくれる。理想だなと思っていた生活をしています。
だいたい実現した
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の始めたい事業を始められたため ・あまりいろいろ考えていたわけではないのですが自然が近いところでの暮らしをしたかったので。まだまだやってみたいことはたくさんあります。 ・山菜をいつでも採集できる。自然を満喫。 ・憧れてた自然豊かな中で生活できている。自然に沿った生活を学ばせてもらっている。 ・仕事のストレスが激減した、精神的時間的なゆとりができた。 ・高齢者との触れ合いがあり、文化を知ることができた。 ・新居で家族とゆっくり生活できているので。
あまり実現していない
<ul style="list-style-type: none"> ・人との関係性については満足しているが、仕事面ではあまり思った成果がなく、居住環境はとても良いがその反面で自分がイメージした田舎暮らしとは少し違っている。 ・コロナ関係で思うような交流が出来なくなってしまったこともあるから。 ・やりたいことはあるけれど、今のところ時間が足りないため手が回らないから。
実現していない
<ul style="list-style-type: none"> ・まだ移住して日が浅く、仕事も家も仮の状態であるため。 ・自分の拠点や生活環境作りは3年かけて行う(探していく)予定。 ・行政職員の協力隊に対する対応に疑念がある
ここでは実現しそうにない
<ul style="list-style-type: none"> ・かなりの住みにくさを感じている。会津地方にかなり閉鎖的な雰囲気を感じている。お店、医療機関も少なく、情報がない。住んでいる周辺に街灯が少なく歩道も無いが車の交通等はそこそこある場所で、子供が成長して通学するようになった時心配で送り出すことができない。 ・土地に絡むもの(家賃や住宅ローンや駐車場代等)以外の物価がほぼ全て東京より高いので金銭的に無理。まして雪国ならではの出費が掛かる。

上記含め、72件の回答をいただきました。

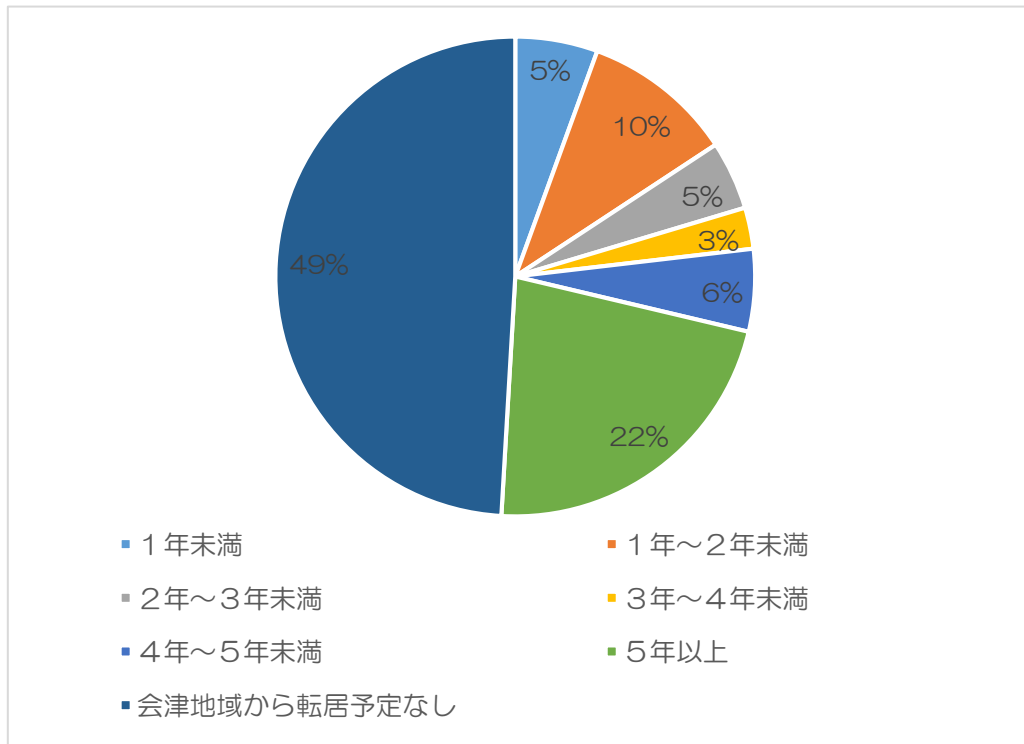
Q24 (先輩移住者として) 後輩移住者に教えてあげたいこと
 事前の情報収集やつながりづくり、生活設計や雪などの自然環境についての回答があった。

HP に情報がほとんどないため一度足を運んで担当者に詳しく聞くべき。
いろいろ大変な事も多いけれど、楽しい事のほうがずっと多いです。
さまざまな”環境”によって暮らしの質は大きく変わると思う。労働環境、生活環境など、文字や写真だけでは伝わりづらい部分をどう見極めるかが重要。
まずは、移住して友人を沢山作ることから始めれば、助けてくれる。いろいろと教えてくれる人が多い。
移住前に地域の人と関わるべき
自治会などのコミュニティの良さと会津野菜の素晴らしさ。
地域の集まりは積極的に参加したほうがよい。
地域の人との繋がりが移住生活の何よりの助けになります。
地域の人達との距離感を大切に。
会津はうまい、会津はおもしろい
会津はひとがあたたかいこと
人間関係の厳しさ、雪国の厳しさ。
よそ者としての覚悟。
現在の暮らしと、移住後の暮らしのメリット、デメリットを想像でも良いので書き出して、比較すること。
移住して何をやりたいか、それが実現出来そうな場所かを念頭に考え、マイナス要因は容認出来るものなのかを慎重に考える。
夏季・冬季別の家計イメージ。
家族だと田舎暮らしもお金はかかる。
買い物等不便な生活を楽しめる気持ちの豊かさが必要。役場や学校が徒歩圏内は高齢者にとっては相当魅力。
行政、公共サービスは都市部とは違う。
行政に依存しないこと。住民との密接な空間の確保(味方は住民のみ)が重要。

上記含め、76件の回答をいただきました。

5 アンケート結果【これからに関すること】

Q25 これから先、どのくらい会津地域に住み続けたいか
「会津地域から転居予定なし」及び「5年以上」が71%となった。



Q26 移住者同士の交流の場に参加する場合、期待するテーマ
年代、職業、地域、子育て世代毎などの回答があった。

20代の移住者交流、1ターンだらけの交流
アンダー40の交流会（町民、移住者含む）
会津地域の地域おこし協力隊の交流会、20～30代の移住者交流会
ものづくり交流会
移住と体験型の交流会
奥会津の移住者交流会
子育て世帯の移住者交流会、子育て世帯の移住者と会津に詳しいママさんの交流会
女性同士ー生活者の目から見た交流会
若手移住者の交流会
農家の移住者交流会

上記含め、56件の回答をいただきました。

Q27 行政が行う『移住・定住支援』として今後期待すること
情報発信、住まいに関する支援、つながりづくりに関する支援、仕事に関する支援、子育て支援などの回答があった。

IoT を活用し、移住がしやすくなる事。
お試し移住、賃貸空き家の充実。
空き家の情報提供や事業承継のサポート、創業支援等。
住まいの相談支援。
移住コンシェルジュやワンストップ窓口、地域の重要人物とのつなぎ、家賃補助、就業支援など。
移住希望の人と移住した人、地元の人などが交流し、移住希望の人に情報提供できる交流会、空き家情報と就職先の紹介を強化。
移住経験のある担当者と地元出身の担当者のコンビネーションによる支援。
定期的な交流会の開催。
定住後の継続的なフォローアップ、起業したビジネスへのサポート。
子育て支援。

上記含め、68件の回答をいただきました。

以上

アンケートに御回答くださいました皆様、御協力ありがとうございました。